

巨額収益を上げたヘッジファンドー 主要事例の比較

単年・単一テーマの事例を年代順に配列し、長期累計の参考事例を末尾に別掲。円換算は各年の平均為替レート(概算)による参考値

年代	ファンド／運用会社(運用拠点)	運用者(代表者)	主な投資先・取引	収益額(現地通貨)	円換算(概算)	備考
1987年	チューダー・インベストメント(米)	ポール・チューダー・ジョーンズ	株価指数先物のショート(ブラックマンデーを予見)	旗艦ファンドの年間リターン約+125.9%(報酬控除後)	—	ジョーンズ本人の利益は推定約1億ドル(約145億円・1ドル=145円)。暴落局面でも先物運用が収益を上げ得ることを象徴する事例
1992年	クオンタム・ファンド(運用は米ソロス・ファンド・マネジメント)	ジョージ・ソロス(実務はS.ドラッケンミラー)	英ポンドの空売り(ERM離脱に賭ける)	約10億ドル	約1,270億円(1ドル=127円)	「イングランド銀行を打ち負かした男」。ERMの制度矛盾が背景。ファンド籍はオランダ領アンティル
2006年	センタウラス・エナジー(米)	ジョン・アーノルド	天然ガス先物(破綻したアマランスと反対方向のポジション)	年間リターン約+200%(+300%超とする報道もあり数値に幅)	—	元エンロンのガストレーダー。本人の年間所得は15〜20億ドルと推計。商品先物単一市場での巨額収益例
2007年	ポールソン・アンド・カンパニー(米)	ジョン・ポールソン	CDS・ABX指数等を用いたサブプライム関連の一連の弱気取引	約150億ドル(本人の年間所得は約37億ドル)	約1兆7,700億円(1ドル=118円)	「史上最大のトレード」と呼ばれるが、単一の取引ではなく住宅バブル崩壊をテーマとする一連の取引
2012〜13年	ソロス・ファンド・マネジメント(米・ファミリーオフィス)	運用チーム(当時CIOはスコット・ベッセント)	円売り(アベノミクス初期の円安局面)	約10億ドル	約1,000億円(1ドル=98円)	日本の政策転換を捉えたマクロ取引の代表例。ベッセント氏は現米財務長官
2020年	パーシング・スクエア(米)	ビル・アックマン	CDSの買い(コロナ禍の信用スプレッド拡大をヘッジ)	売却代金約26億ドル(取得費・手数料は約2,700万ドル)	約2,800億円(1ドル=107円)	投入資金対比約93〜100倍という史上有数の効率を記録したヘッジ取引
2022年	シタデル(米)	ケネス・グリフィン	コモディティ(天然ガス等)・債券・株式のマルチ戦略	約160億ドル	約2兆1,000億円(1ドル=131円)	当時の単年利益として集計史上最高。約半分を商品部門が稼いだと報じられた
2024年	D.E.ショー(米)	デビッド・ショー(創業者。現在は経営委員会体制)	クオンツ・マルチ戦略(マクロ戦略Oc ulusは+36%)	約111億ドル(LCH集計の上位20社中で2024年首位)	約1兆6,800億円(1ドル=151円)	クオンツ大手。多戦略型の安定した収益力を象徴
2025年	TCIファンド・マネジメント(英)	クリストファー・ホーン	大型優良株の集中ロング(鉄道・取引所・航空宇宙等)	約189億ドル	約2兆8,400億円(1ドル=150円)	LCHの年次集計史上、単年利益として過去最高。直近3年で計400億ドル
1988〜2018年【参考・長期累計】	ルネッサンス・テクノロジーズ「メダリオン」(米)	ジェームズ・シモンズ	統計・計量モデルによる短期・高回転取引(当初は商品・通貨先物が中心)	推定トレーディング利益約1,045億ドル(報酬・費用控除前)。年率66%(控除前)・39%(控除後)	参考:約11兆円(1ドル=110円換算)	非公開ファンドのため数値はG.ザッカーマンの調査による推計。単年事例とは性質が異なるため参考掲載

注記

- 収益額の性質は事例により異なる(ファンドの投資家帰属利益／年間リターン／売却代金／トレーディング利益の累計推計)。定義は各欄に明記した。ポールソンの「本人所得」は成功報酬に自己資金の運用益等を含む年間所得の推計であり、ファンド利益とは区別される。
- 円換算は各年の対ドル平均為替レートの概数を用いた参考値。確定的な利益額のない事例(1987年チューダー、2006年センタウラス)は換算欄を省略した。メダリオンの累計換算は便宜上1ドル=110円で計算した目安。
- 出典: 2022年シタデル・2024年D.E.ショー・2025年TCIはLCHインベストメンツ(エドモン・ド・ロチルド系)の年次推計、2007年ポールソンは各種報道・Institutional Investor誌の集計、メダリオンはG.ザッカーマン著の調査等による。センタウラスの2006年リターンは報道により約200%(Institutional Investor誌)から300%超まで幅がある。
- 単年収益とファンド累計・個人所得は性質が異なるため、比較の際は各欄の区別に留意。過去の収益は将来の成果を保証するものではない。
- 参考: LCHインベストメンツの年次推計によると、世界のヘッジファンド業界全体が2025年に投資家にもたらした利益は約5,430億ドルと過去最高。HFRによると業界の運用資産は2026年6月末時点で約5.6兆ドルと過去最高。